



図 53 抗体応答.

価が上昇している場合は、初感染と診断する。それ以外は、血清抗体価上昇を認めても、原因ウイルスと判定することはできない。

文 献

- 1) 感染性角膜炎全国サーベイランス・スタディグループ：感染性角膜炎全国サーベイランス—分離菌・患者背景・治療の現況—。日眼会誌 110：961—972, 2006.
- 2) 大橋裕一, 木下 茂, 細谷比左志, 李 三榮, 荒木かおる, 切通 彰, 他：角膜上皮の新しい病態—epithelial crack line. 臨眼 46：1539—1543, 1992.
- 3) 石橋康久, 本村幸子：アcantアメーバ角膜炎の臨床所見—初期から完成期まで—。日本の眼科 62：893—896, 1991.
- 4) 塩田 洋, 矢野雅彦, 鎌田泰夫, 片山智子, 三村康男：アcantアメーバ角膜炎の臨床経過の病期分類。臨眼 48：1149—1154, 1994.
- 5) 下村嘉一(眼ヘルペス感染症研究会)：上皮型角膜ヘルペスの新しい診断基準—New criteria of diagnosis for herpetic epithelial keratitis—。眼科 44：739—742, 2002.
- 6) 砂田淳子, 上田安希子, 井上幸次, 大橋裕一, 宇野敏彦, 北川和子, 他：感染性角膜炎全国サーベイランス分離菌における薬剤感受性と市販点眼薬の postantibiotic effect の比較。日眼会誌 110：973—983, 2006.
- 7) 岡本茂樹, 石橋康久, 井上幸次, 内尾英一, 大橋裕一, 北川和子, 他：アシクロビル眼軟膏の副作用調査。臨眼 51：1112—1114, 1997.
- 8) 新村真人, 西川武二, 川島 真, 本田まりこ, 漆畑 修, 島田真路, 他：塩酸バラシクロビル錠の帯状疱疹に対する第Ⅲ相臨床試験—アシクロビル錠を対照とした二重盲検比較試験—。臨床医薬 14：2867—2902, 1998.
- 9) 田原和子, 浅利誠志, 遠藤卓郎：Acanthamoeba 角膜炎または角膜真菌症の同時迅速診断法。JAR-MAM 7：37—44, 1995.
- 10) 荒木博子, 高野博子, 中川ひとみ, 中川裕子, 中川 尚：Impression cytology による偽樹枝状角膜炎からの水痘—帯状ヘルペスウイルス抗原の検出。眼臨 86：1002—1005, 1992.
- 11) Wilhelmus KR, Abshire RL, Schleich BA：Influence of fluoroquinolone susceptibility on the therapeutic response of fluoroquinolone-treated bacterial keratitis. Arch Ophthalmol 121：1229—1233, 2003.
- 12) 塩田 洋：角膜真菌症の特徴。眼科 30：231—236, 1988.
- 13) 内田勝久, 山口英世：抗真菌薬の創薬における前臨床薬効評価の現状と課題。真菌誌 45：83—91, 2004.
- 14) 竹林 宏, 塩田 洋, 内藤 毅, 木内康仁, 三村康男：角膜真菌症の検討。臨眼 51：33—36, 1997.
- 15) Horikami H, Ishii K, Yamaura H, Ishibashi Y：Disinfection against acanthamoeba's cyst from human keratitis. Zool Sci 9：1277, 1992.
- 16) 石井圭一, 石橋康久：両生アcantアメーバによる角膜炎。原生動物学雑誌 22：4—9, 1989.
- 17) 井上幸次, 大橋裕一：検査のこつ ウイルス性外眼部疾患へのアプローチ 3—単純ヘルペスウイルス—。眼紀 39：1938—1939, 1988.
- 18) 森 康子, 西川憲清, 井上幸次, 桑山信也, 下村嘉一, 真鍋禮三：ヘルペス性眼疾患におけるウイルス分離率について。眼紀 42：822—825, 1991.
- 19) Fukuda M, Deai T, Hibino T, Higaki S, Hayashi K, Shimomura Y：Quantitative analysis of herpes simplex virus genome in tears from patients with herpetic keratitis. Cornea 22 (Suppl. 1)：S 55—S 60, 2003.